

## 介護予防認知症ケアスタッフ活動支援事業

### —平成 19 年度～平成 25 年度「バリデーション研修」アンケート—

#### 目的

本アンケート調査の目的は、平成 19 年度から 25 年度まで実施した認知症ケアスタッフ研修が、地域の認知症ケアにどのように活かされているのか、その効果を分析し、活動支援事業の今後の課題について検討することである。具体的には、バリデーション研修に参加したスタッフについて、研修の満足度や参加度、また研修内容として共感や認知症ケアの基本的態度の理解度、さらにコミュニケーションスキルの活用程度やスキルの習得度等を把握し、認知症ケアに寄与する研修会とは何かを考察した。

本調査は、まず Part I では、研修参加者の属性、参加動機、認知症ケアで必要な知識やスキル、希望する研修についての結果をまとめた。次に Part II では、バリデーション研修についての満足度、バリデーションの知識・スキルの理解度、バリデーションの実践・活用程度についての結果をまとめた。最後に Part I・II の結果について総合考察をした。

#### 対象

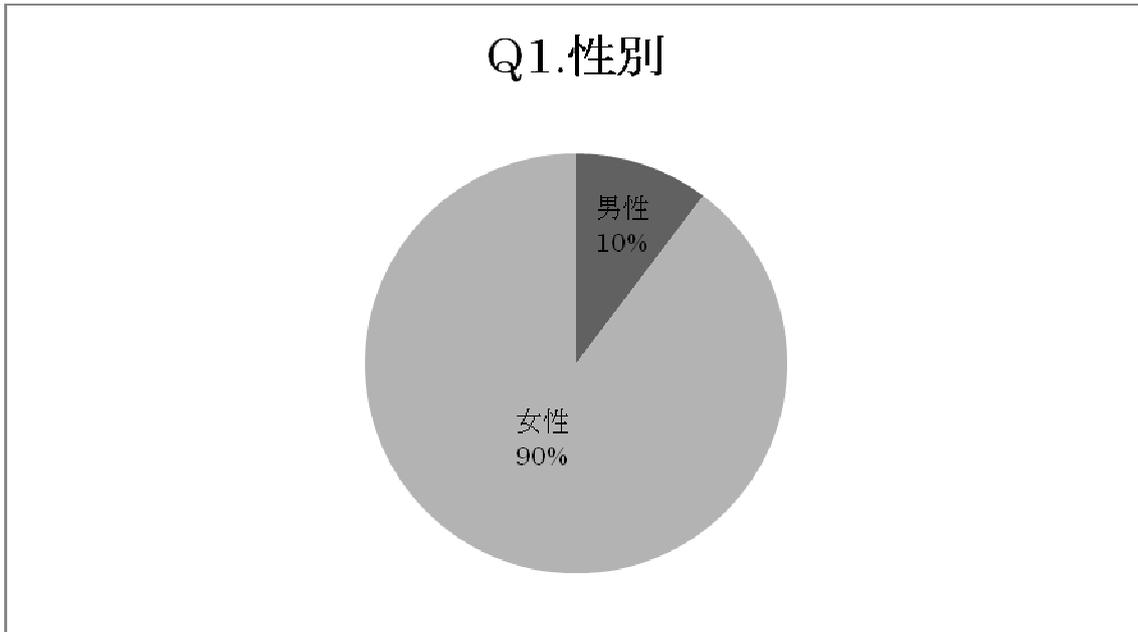
平成 19 年度から平成 25 年度の研修参加者のデータ分析

有効回答数 78 人 (110 人中) (回収率 : 70.9%)

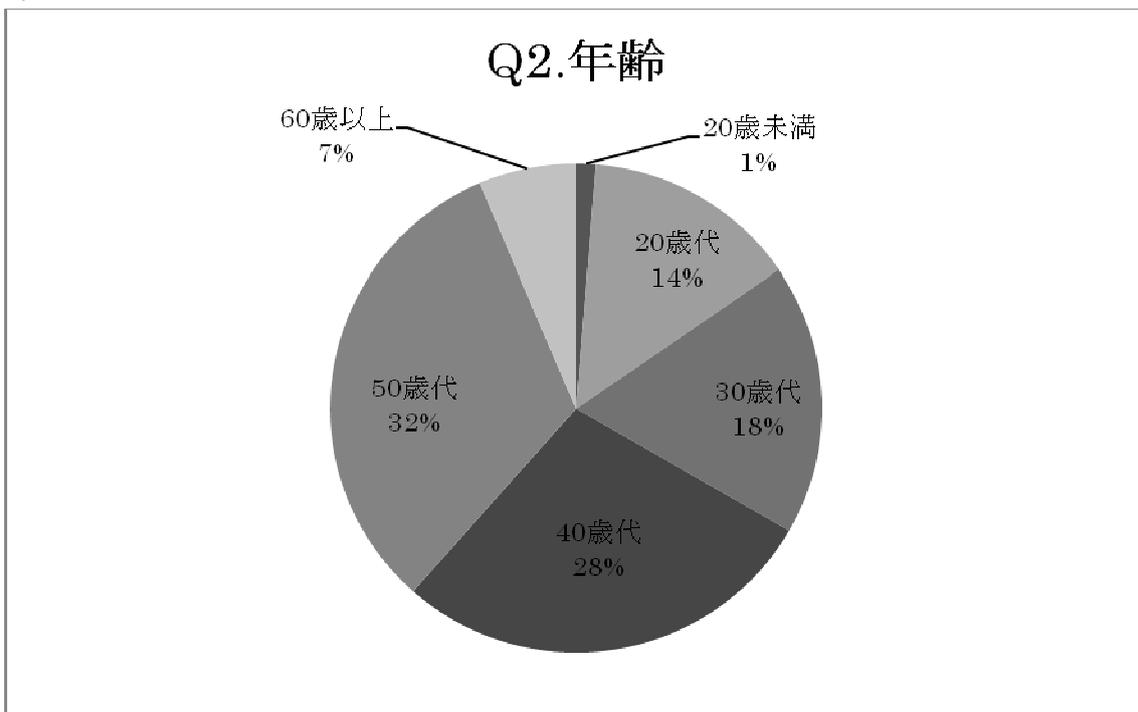
# 結果

## Part I

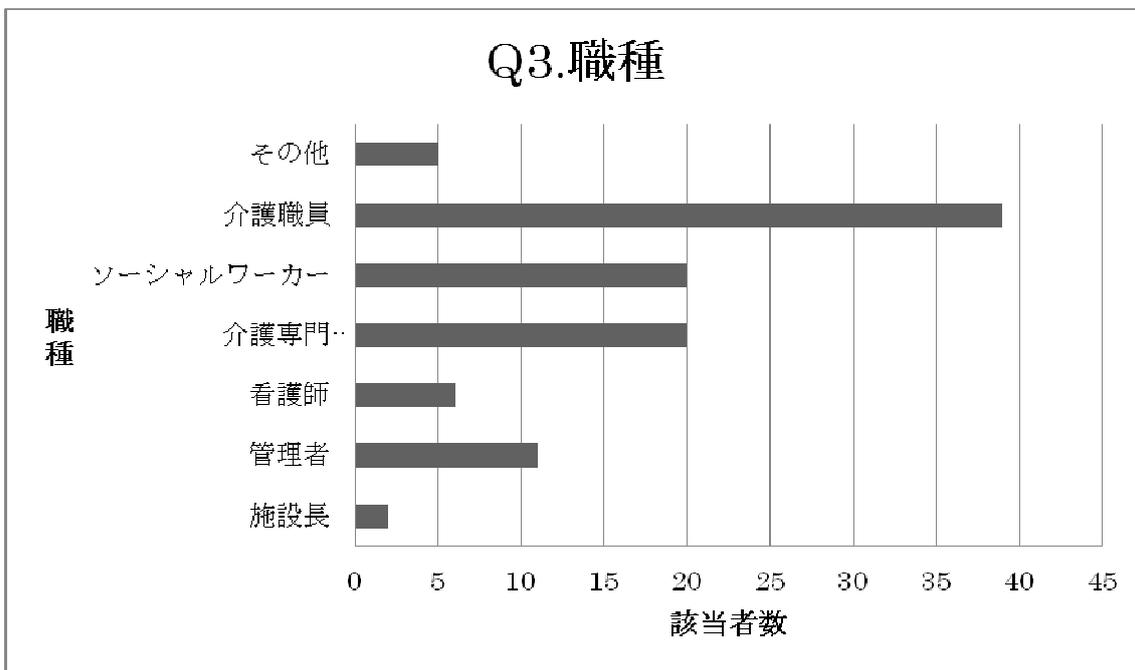
Q1.あなたの性別は？



Q2.あなたの年齢は？

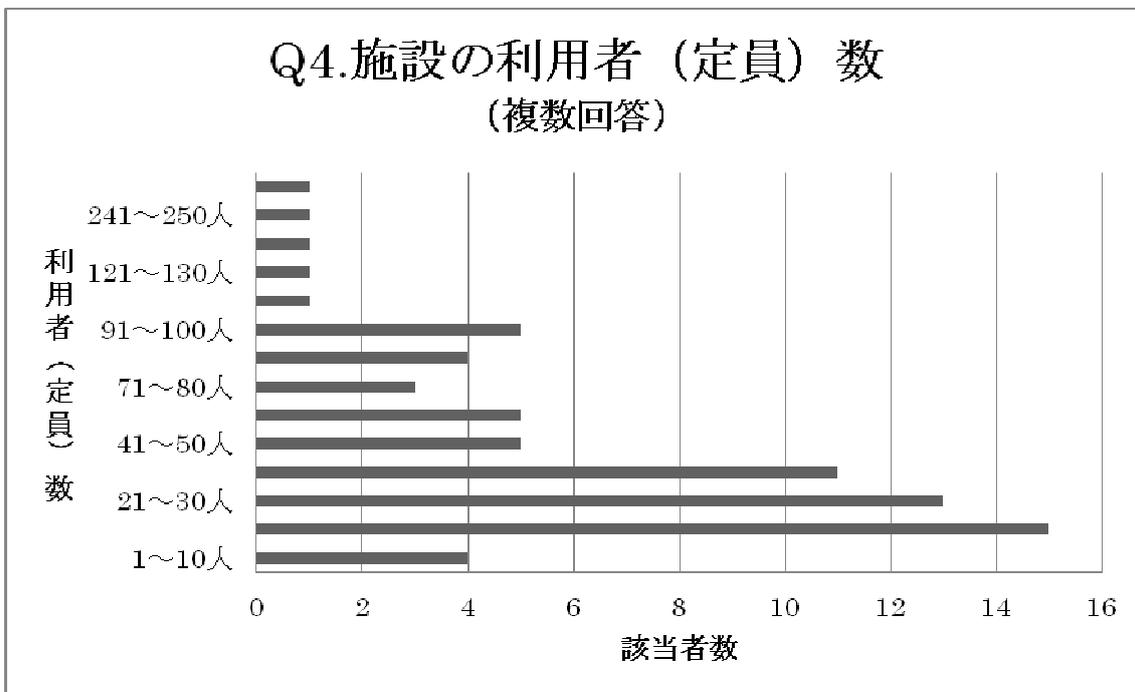


Q3.あなたの職種は？

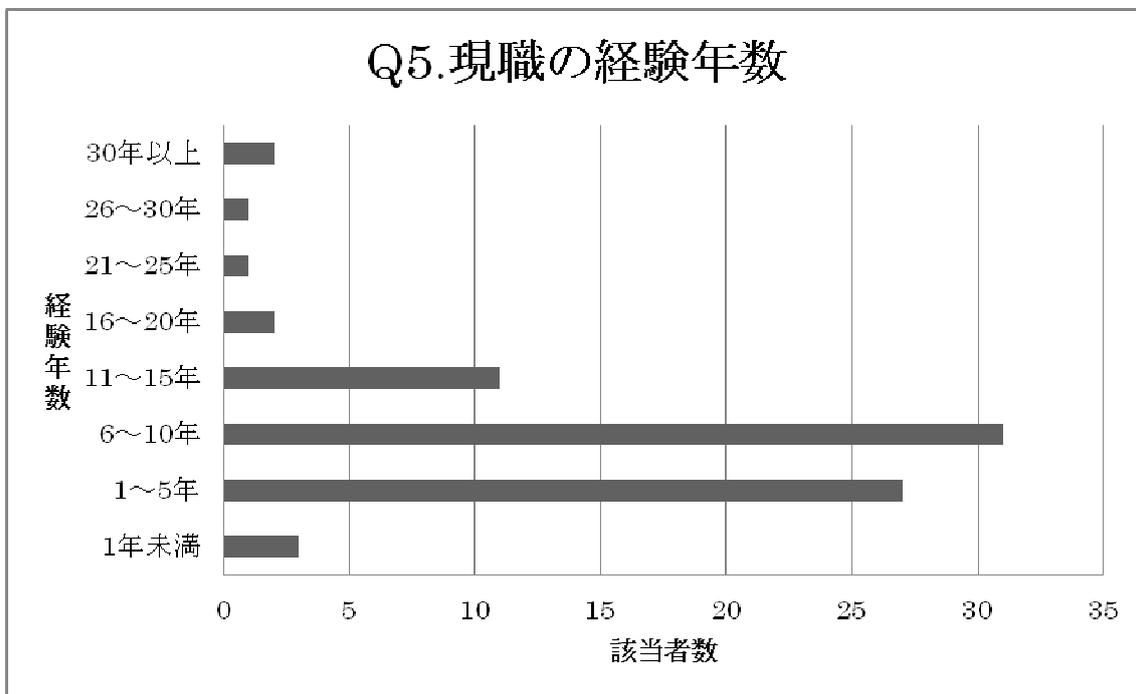


Q4.あなたの勤務している（していた）施設の利用者（定員）数は？

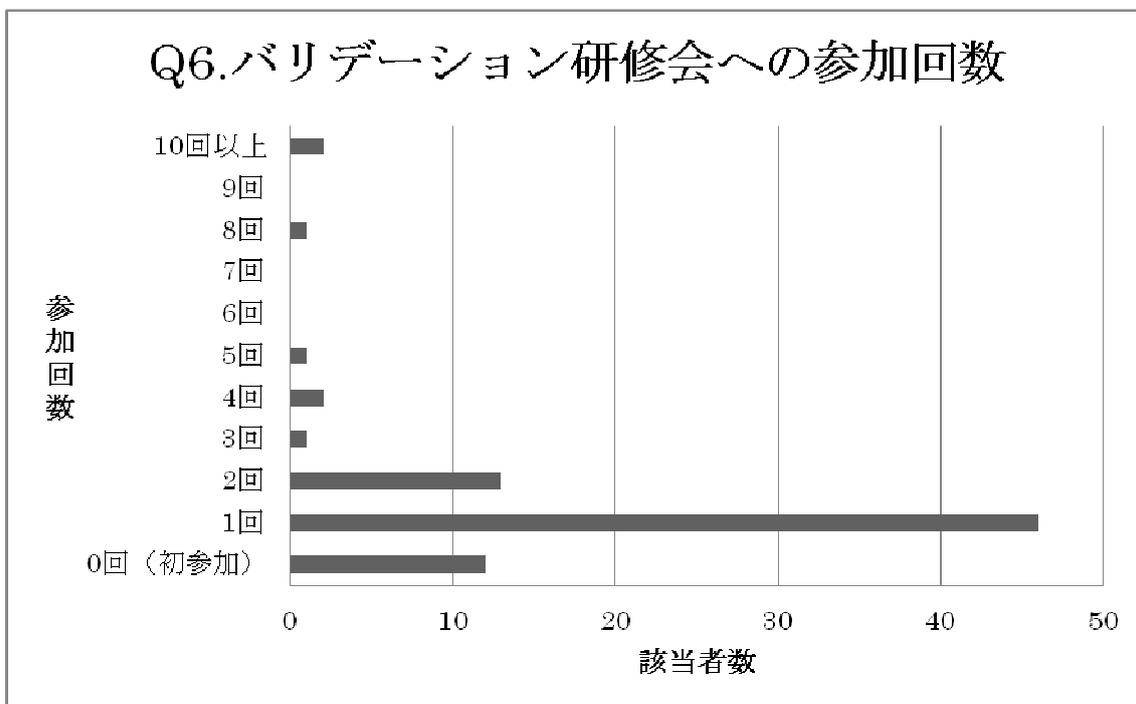
(複数回答可)



Q5.あなたの現在の経験年数は？

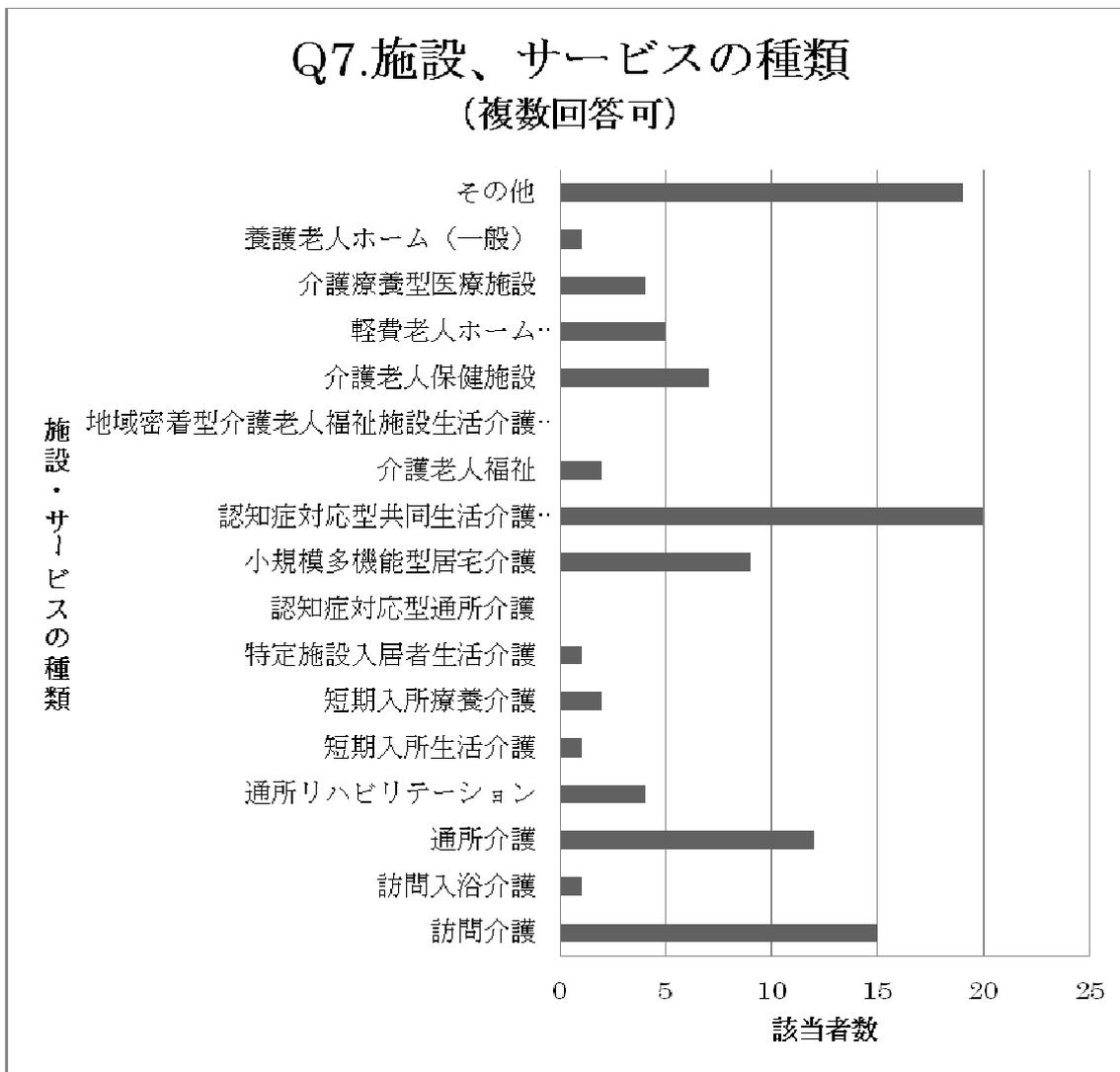


Q6.あなたのバリデーション研修会への参加回数は？



Q7.あなたの勤務している（していた）施設、サービスの種類は？

(複数回答可)



Q8.バリデーション研修会への参加動機について具体的に書いてください。

#### <認知症ケアへの学習意欲>

- ・「認知症について勉強していきたいという意欲が強く、認知症についての知識不足を補いたい」
- ・「知識としての理解を実践を通して深めたかった」
- ・「認知症の利用者に対して接する方法を学びたい」
- ・「福岡で行われたナオミ・フェイルさんのバリデーションセミナーに参加し、もっと勉強したい」
- ・「認知症の理解のため」
- ・「認知症の利用者が多く、対応に困っているため」
- ・「認知症の人を理解（正しく）し、心に添うことが出来たらいいと思いました」
- ・「認知症やかたくな方との関わりを少しでも相手を理解し合える関係になりたい」
- ・「認知症の方と接するにあたり悩むことが多く、研修会に参加して研鑽を深めたい。」
- ・「以前、研修会に参加したことがありますが、“おさらい”の意味で参加」
- ・「バリデーションという言葉聞いたことがなく、しっかり学んで、職場で活かしていきたいと思った」
- ・「色々な方がいらっしゃるので接し方を学びたい」
- ・「認知症の勉強をするために様々な研修に参加しているから」
- ・「本格的な研修を受けたことがない」
- ・「認知症の方への対応、認知症の方の心理を知りたい」

#### <紹介>

- ・「研修案内（DM）があったから」
- ・「上司（会社）から勧められたため」

#### <バリデーションへの興味・関心>

- ・「ナオミ・フェイル氏のバリデーションについて記載された本を読み、興味を持った」
- ・「バリデーションという活動がよくわからない」
- ・「バリデーション研修に参加したことがなかった」
- ・「バリデーションの内容に興味があって、知識を修得したい」
- ・「同僚が参加して良かったとの感想があって興味がわいた」
- ・「利用者様とコミュニケーションを図るのが好きで、もっと深い所での気持ちを引き出す方法があると聞き、興味が出た」
- ・「何度かバリデーション研修に参加して興味を持った」
- ・「以前より、バリデーションに興味があった」
- ・「案内を頂き興味があり、業務に生かす事ができたらと思った」

- ・「“バリデーション法”に興味を持ち、どのように現場にいかすことができるかを学びたいと思った」

### <コミュニケーション技術の向上>

- ・「認知症の方とのコミュニケーション技術を向上させ、利用者の方へ少しでも「良い時間」をお過ごしいただけるお手伝いをしたくて」
- ・「患者さんとのコミュニケーションが上手く取れない時期で、少しでも技術を身につけたい」
- ・「老人介護に際しての新しいスキルを身に付けたい」
- ・「認知症の方とどのような感じで対応していったらいいのか」
- ・「仕事に生かしたい」
- ・「アセスメント時に利用したい」
- ・「訪問介護での対応に役立てられないかと思った」
- ・「音楽療法時、利用者様とのかかわりについて深く追求出来る」
- ・「スキルアップのため知識を高める」
- ・「認知症の方のアセスメントでなかなか内面を聞き出すことが難しい」
- ・「利用者方の心の声を聞き、信頼関係をより深く築きたい」
- ・「コミュニケーションの向上」

### <その他>

- ・「他のスタッフに伝えていきたい」【職員のため】
- ・「正しくケアできる事でみんなが安心できる環境を作り、不安を抱えて毎日頑張っている部下を護りたい」【職員のため】
- ・「家族等から認知症についての相談を受けることが多くなった」【利用者のご家族のため】
- ・「自分のレベルアップの為、又自分の家族が認知症の為」【自分の家族のため】
- ・「利用者との間で起こった（小さい）販売トラブルをきっかけに」【利用者とのトラブル】
- ・「勤務シフト上参加できなかったため」【日程が合ったため】

Q9.バリデーションは、現場で活用されていますか？

①「はい」と答えられた方（25名：32%）

### <コミュニケーション>

- ・「利用者の方と接する（コミュニケーションをとる）時に活用」
- ・「言葉の声かけ」

- ・「意向を確認する時に活用」

### <共感・傾聴>

- ・「特に共感するという点についてなんとなく行っていたが、近頃では利用者様の言葉一つ一つを探りながら聞いていくようになった」
- ・「利用者の気持ち、心理の深いところを知りたい為、わかりたい時に、簡単なやりやすいテクニックを活用している」
- ・「利用者の話を傾聴し共感している」
- ・「本人の想いに寄りそうことを考えられるようになった」

### <バリデーションテクニック>

- ・「部分的ではあるが、利用者との会話の中で、相手を観察し共感する姿勢で、時にはあいまいな表現や極端な表現などを使う」
- ・「不穏の方、いつもと表情が違う方の隣に座り、別段無理に会話するでもなく、目を見たり、手を握ったりしていると、心の中を話してくださったり、落ち着かれたりされる」
- ・「適度な距離、アイコンタクト、相手のエネルギーに合わせた対応等を活用していきたい」

### <その他>

#### <勉強会>

- ・「身体抑制や人権侵害等がおこらないように、具体的な話をしたり、勉強会を開いたりしている」

#### <ご家族への援助>

- ・「家族の方にも対処法として伝えていきたい（考え方等も）」
- ・「家族から相談をうけた時の援助方法として紹介している」

### ②「いいえ」と答えられた方（48名：62%）

- ・「あまり知られていません」
- ・「確実に活用されているとは言えない」

### ③「無記入」の方（5名：6%）

- ・「認知症高齢者のアセスメント時に活用していると思うが、なかなか上手に活用することができない」
- ・「短期記憶がよい方、他の人がみても認知症だと明らかな方など、個別の対応に対応

できるのが良いと思う」

- ・「なるべく、自分が学んだことを伝えて実践してもらいたいと思うが、なかなかできない状況」
- ・「必ず活用します」

## Q10.バリエーションは職場で推奨（導入）されていますか？

### ①「はい」と答えられた方（16名：20%）

#### <研修会>

##### <職場での研修会>

- ・「スタッフの研修会で発表し、スタッフも別の研修会に参加して勉強したりしながら、仕事に役立てている」
- ・「認知症の利用者に対し事例検討などを行いながら全員で話し合いなど行っている」
- ・「相手の気持ちを第一に尊厳を大切にし、相手に寄り添うケアを職場での目標として掲げている」

##### <他の研修会への参加>

- ・「バリエーションに関する資料を職員で回覧したり、実際に研修を受けたりしている」
- ・「スタッフに研修に参加させている」

##### <同業者との情報共有>

- ・「研修後は他のケアマネージャーに研修報告し、情報の共有に努めている」

#### <ミーティング>

- ・「対応困難な利用者に対するバリエーション導入についての意見を出し合っている」

#### <その他>

- ・「職員に色々と声かけしているが、性格的になかなかできない人がいるのが現実」
- ・「推奨と言うか自然にやっている」

### ②「いいえ」と答えられた方（52名：67%）

- ・「まだ新人のスタッフには導入していない」
- ・「なかなか難しい」
- ・「職員に統一した指導（介護職各人の関心・理解）が統一できていない」
- ・「通常デイサービスという事で対象となる利用者がほとんどない」

③「無記入」と答えられた方（10名：13%）

- ・「居宅では推奨されていないが、法人内の小規模多機能などでは推奨されている」
- ・「どちらとも言えないが、それぞれの対応に任せられている」
- ・「今まで言われたことがなかった」

Q11. バリテーション研修会に参加されている同僚（仲間）はいますか？

①「はい」と答えられた方（49名：63%）【複数回答可】

<介護関係>

- ・介護職員（26名）
- ・介護支援専門職員（ケアマネージャー）（12名）
- ・訪問介護職員（ヘルパー）（4名）
- ・管理者（2名）
- ・介護福祉士（5名）
- ・デイサービス（2名）

<看護関係>

- ・看護職（6名）

<心理療法・作業療法関係>

- ・音楽療法士（3名）

<教育関係>

- ・元介護専門学校職員（1名）

②「いいえ」と答えられた方（26名：33%）

③「無記入」の方（3名：4%）

Q12. あなたは他の研修会（認知症に関する研修会）にも自主的に参加していますか？

①「はい」と答えられた方（46名：59%）

<学会>

- ・認知症ケア学会（研修会、大会、倫理）
- ・医師会主催の研修会

#### <部会主催の研修会>

- ・グループホーム部会での研修会
- ・介護支援専門部会の研修
- ・事業所部会の研修会・講習会
- ・訪問介護事業所部会主催の研修会

#### <協会主催の研修会>

- ・ケアマネ協会の研修会
- ・看護協会からの研修会
- ・介護支援専門員研修会

#### <協議会主催の研修会>

- ・協議会からの案内研修
- ・サービス事業者協議会
- ・事業者協議会

#### <講習・講演会>

- ・ケアマネージャーの更新研修
- ・実践者研修及びリーダー研修
- ・認知症介護実践者研修
- ・認知症ケア集中講義（三好春樹先生）。
- ・認知症サポーター養成講座
- ・先駆的取り組みを実践している方の講演会
- ・市内での講演会
- ・認知症ケア専門士の研修会

#### <県や市町村主催の研修会>

- ・地域密着型サービス交流会（事例発表）
- ・「認知症になっても安心して生活できる」久留米市民公開シンポジウム 2013
- ・地域で開催される研修会・講習会
- ・福岡県社協の無料の研修会
- ・地域包括支援センター主催の研修
- ・地域の認知症予防の研修会等
- ・介護福祉会での研修
- ・久留米市主催の研修会
- ・同地域の精神科専門病院が主催する認知症の研修会

### <その他>

- ・デンマークの介護技術などの研修会
- ・九州バリデーション研修会
- ・事業所内での研修
- ・看取り
- ・フローチャート
- ・口腔ケア・口腔内機能向上
- ・胃ろう全廃
- ・自閉症
- ・認知症の対応について
- ・認知症の方の家族の支援
- ・認知症の方の地域との関わり
- ・認知症高齢者虐待

### ②「いいえ」と答えられた方（32名：41%）

- ・「毎日が忙しく、活動できていない」
- ・「自主的かどうかは分からないが、職場に届く研修案内については必ず目を通すようにしている」
- ・「出来るだけ参加したい、するようにしているがあまりできないのが実情」

Q13.今後、認知症ケアを実践していく上で必要なスキルや教育は何だとお考えですか？

### <教育>

#### <認知症の医学的知識および症状>

- ・病気の知識
- ・認知症や高齢者特有の疾患（解剖学）
- ・若年性認知症
- ・認知症の症状に関する知識（夜間頻尿、昼夜逆転など）
- ・認知症に対しての知識（中核症状やBPSDなど）をもっと多くの介護職員に理解してもらおう場

#### <現場の経験>

- ・知識と経験
- ・様々な職種を経験（きちんと教育されたサービス業の施設：ホテル、旅館など）
- ・スタッフ間で事例検討会や座談会（色々な職種で意見交換）

### <道徳・倫理教育>

- ・人間性や感受性
- ・道徳や心の教育（人の質の問題）
- ・文化的・価値観喜び
- ・倫理観（人権についての認識）
- ・高齢者を敬う
- ・技術ではなく、心、思い方の指導
- ・相手の心を思いやる人間づくり
- ・人の気持ち（悲しみ）が分かるための学び、経験
- ・人としてのサービス業としての当り前の”お客様に対する”接客マナーと意識

### <新人教育>

- ・新人教育

### <心理的な教育>

- ・スタッフのストレスマネジメント
- ・心理学

### <スキル>

- ・コミュニケーション
- ・接し方や対応の仕方
- ・共感
- ・チームワーク
- ・バックグラウンドアセスメント
- ・バリデーション
- ・学習療法
- ・傾聴
- ・日常生活の援助をする為の技術
- ・自分自身を知ること
- ・受容
- ・声かけ
- ・観察方法
- ・認知症に関する基礎知識・介護技術
- ・相手の気持ちに寄り添う
- ・関わる利用者様の生活歴を知って、その方の行動の意味を知る
- ・相手の目線に合わせる

- ・相手が何を求めているのか理解すること
- ・ロールプレイング

#### <その他>

- ・認知症の疑いのある方やそのご家族への病院受診のすすめ方、認知症を受け入れて対応していけるような支援の方法
- ・バリデーション法などコミュニケーションに対するスキルアップが図れる教育

Q14.今後取り上げてもらいたい研修のテーマ等、ご意見があれば教えてください。

#### <医学・薬学的な知識>

- ・認知症の医学的な知識
- ・精神科の専門家の話を聞く
- ・高齢者の疾病や服薬等基本的なことを専門の方から学びたい
- ・訪問介護員が知っておくべき医学知識
- ・基本的な用語とかをもっと知るための研修
- ・医療場面の勉強会

#### <教育>

- ・倫理や人権の尊重について
- ・介護サービスや認知症外来を拒否する場合の対応について
- ・難題（ホームでの徘徊・不眠等）解決事例の報告
- ・ストレスマネジメント（介護職員の気持ちを吐き出せることを目的とした内容もの）
- ・現場での介護職員の仕事の実演を目的とした内容のもの

#### <技法>

- ・認知症の方などと出来るレクレーションやミニゲーム
- ・高齢者で知的障害や発達障害がある方の介護方法や基礎知識
- ・パーソンセンタードケア
- ・精神障がい者に対する対応について
- ・認知症の方とのコミュニケーションや対応の仕方
- ・音楽療法
- ・センター方式
- ・コーチング
- ・バリデーション

### <研修>

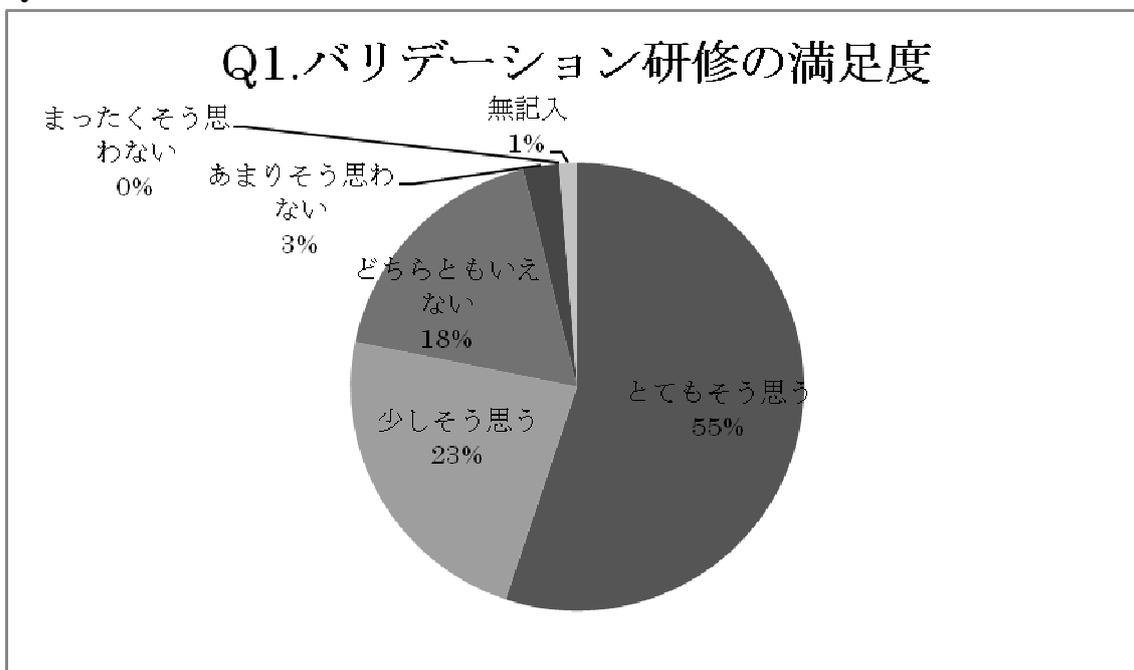
- ・バリデーシヨンの継続（年2～3回）
- ・精神科のDr.を講師とした研修
- ・管理者研修

### <支援>

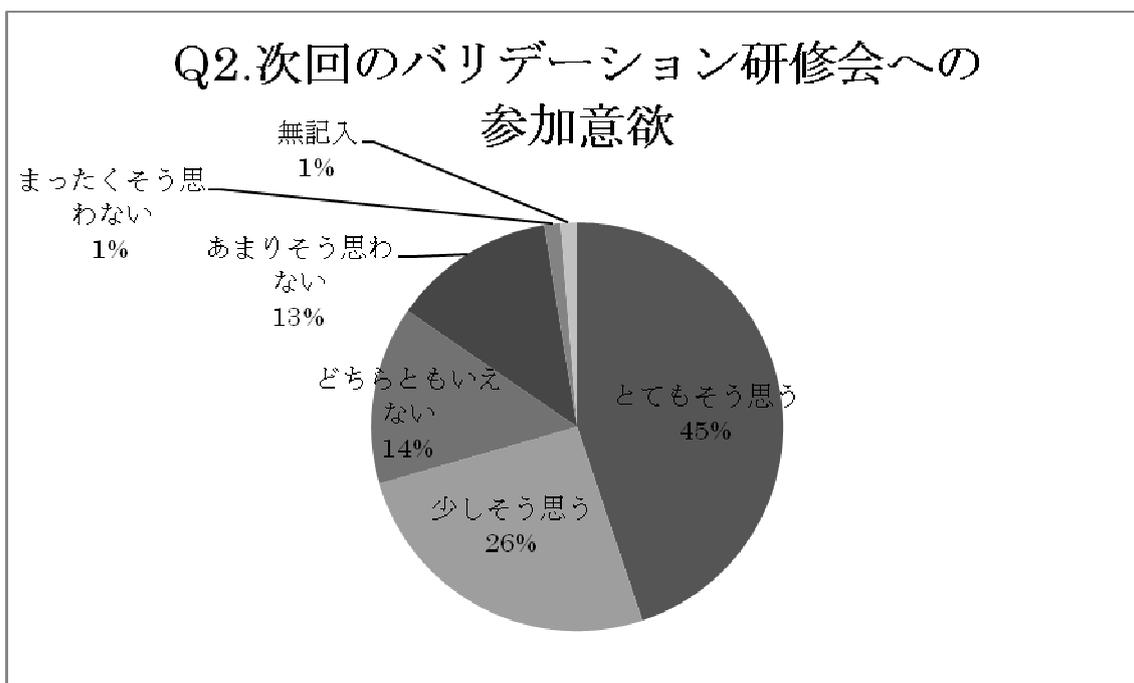
- ・家族へのケア
- ・認知症の方の在宅での支援

## Part II

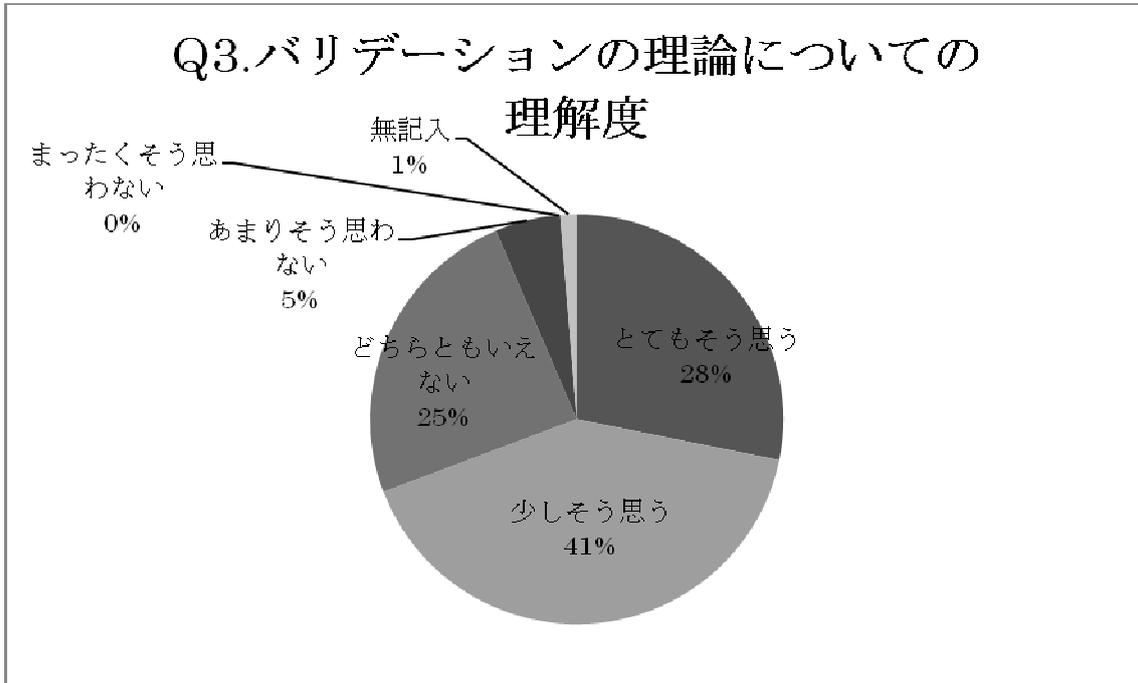
Q1.バリデーション研修はあなたにとって満足できるものでしたか？



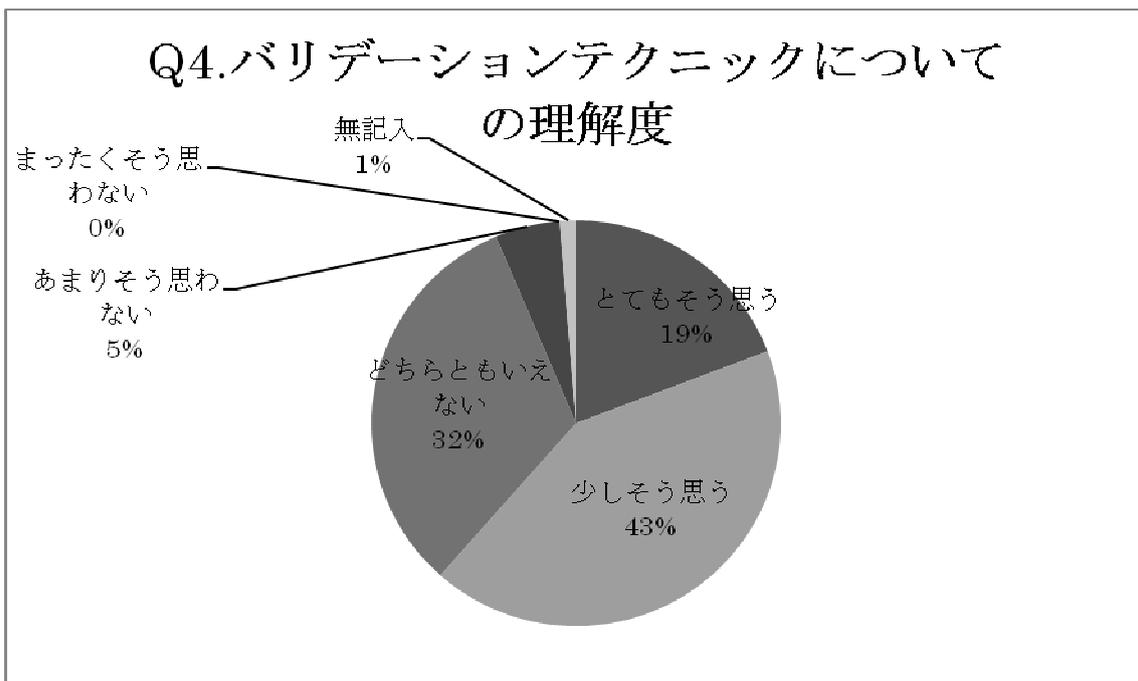
Q2.次回も研修会へ参加したいと思いませんか？



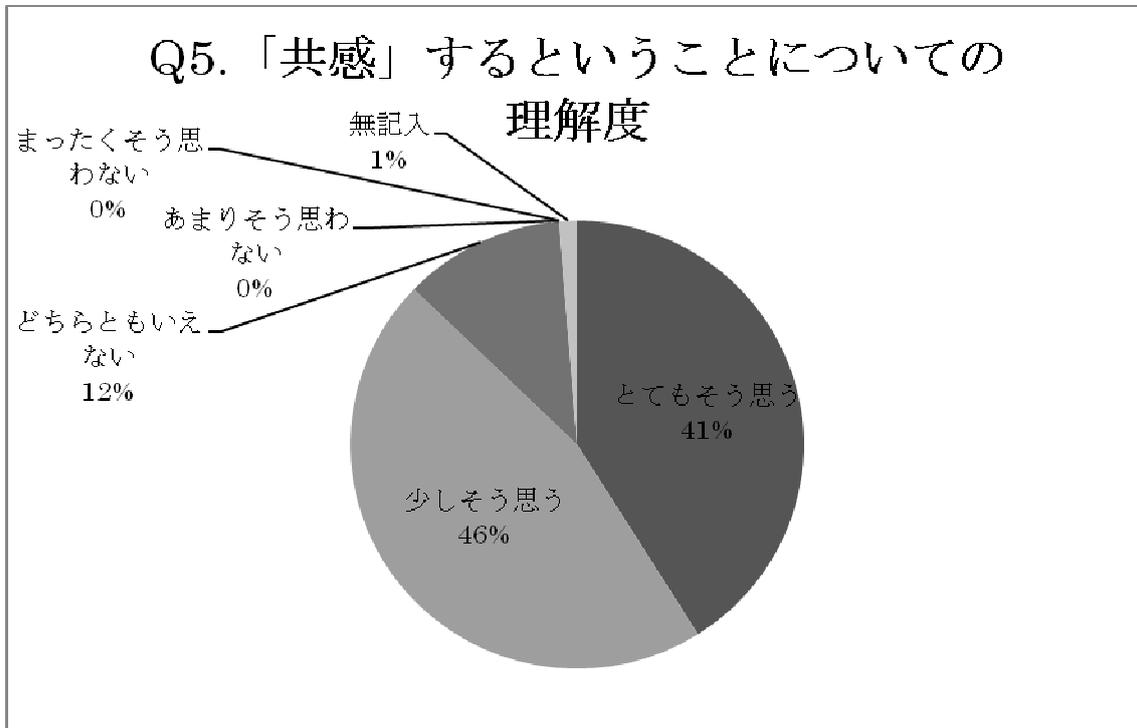
Q3. バリデーシヨンの理論について理解できましたか？



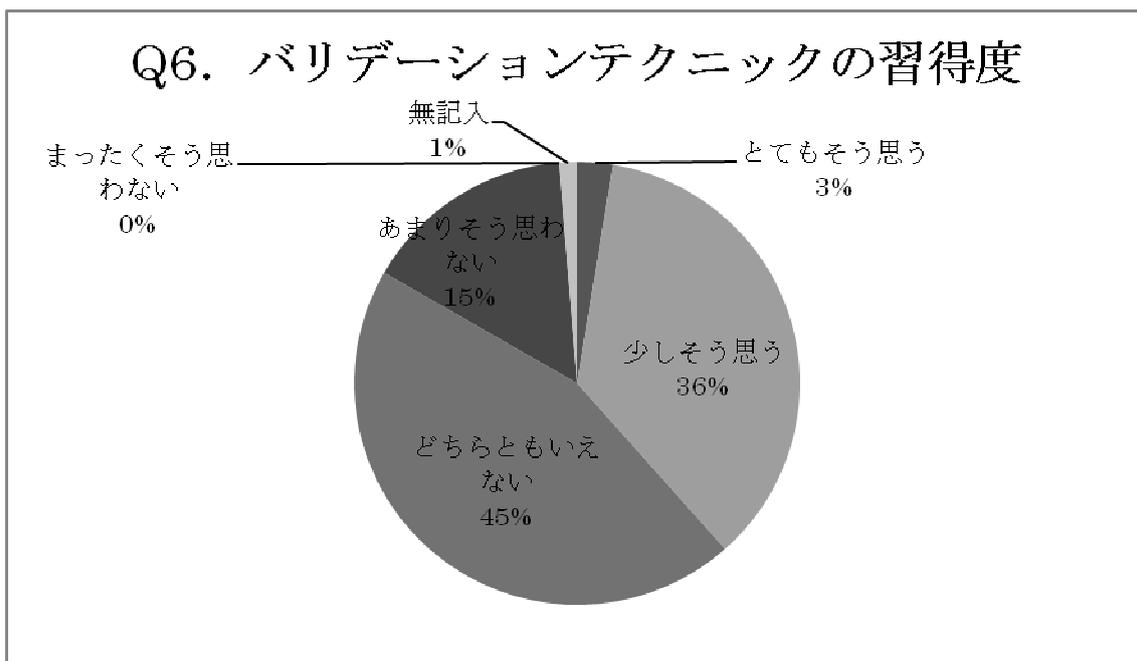
Q4.バリデーシヨンのテクニックについて理解できましたか？



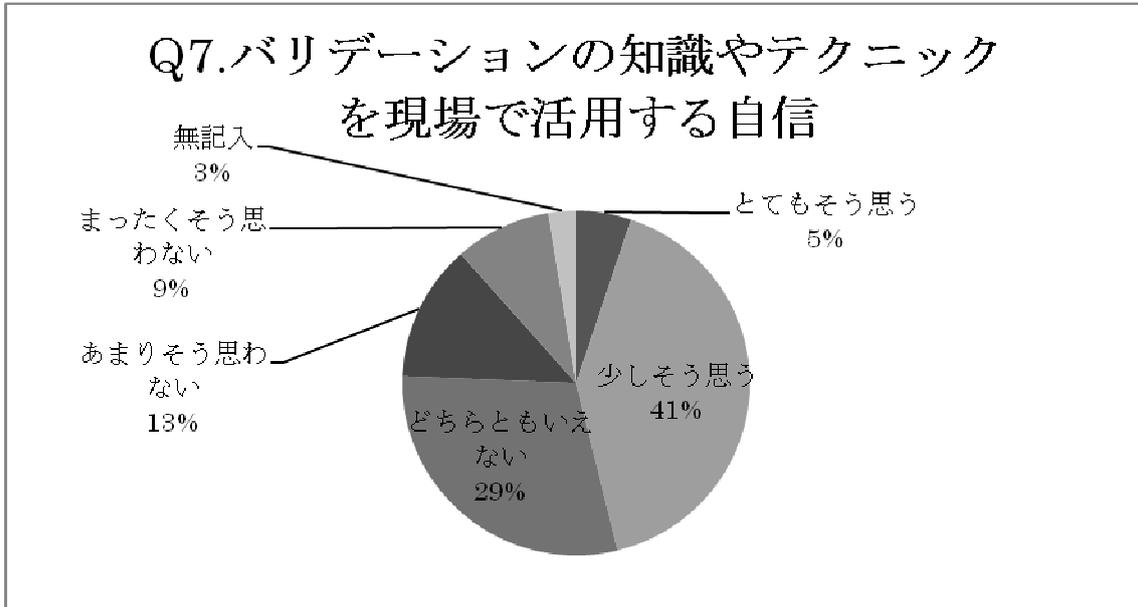
Q5. 「共感」するということについて理解できましたか？



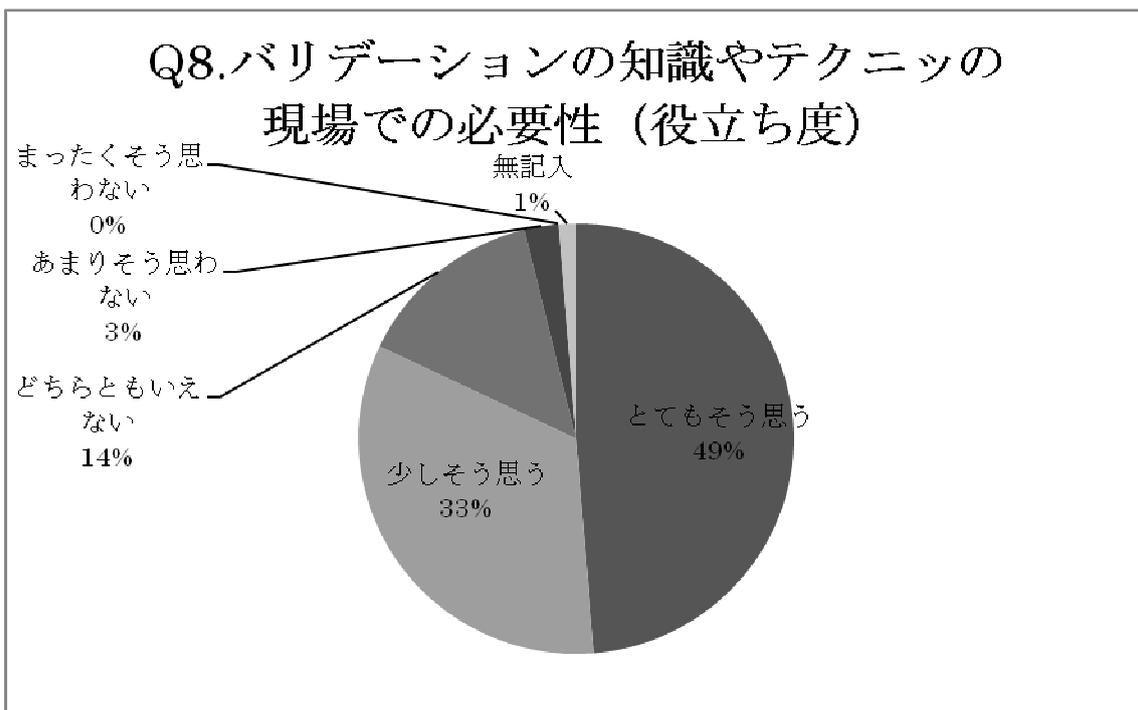
Q6. バリデーションのテクニックは習得できましたか？



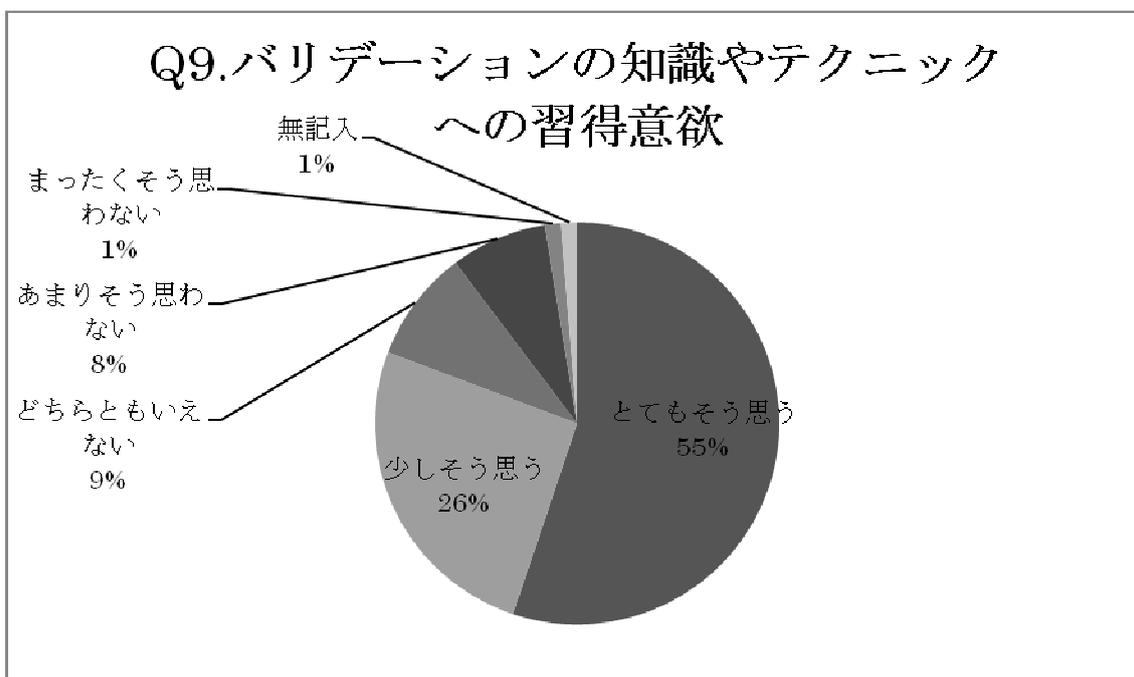
Q7.バリデーションの知識やテクニックを現場で活用する自信がありますか？



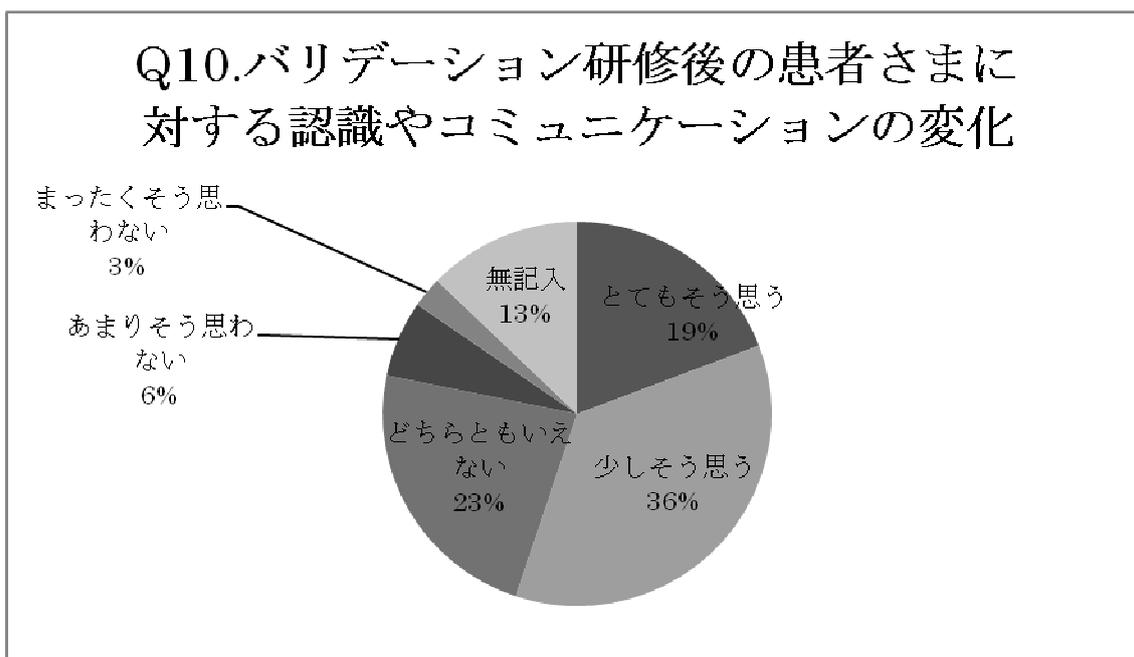
Q8.バリデーションの知識やテクニックは現場で役立つ（必要だ）と思いますか？



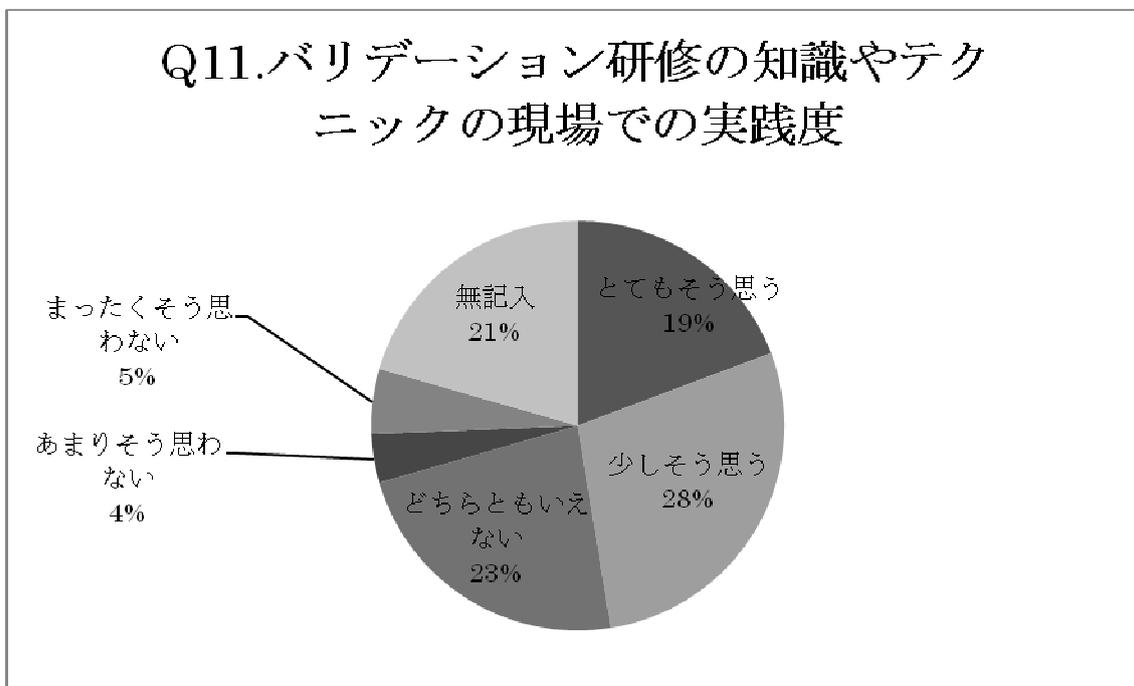
Q9.バリデーションの知識やテクニックをもっと深めたいですか？



Q10.バリデーション研修を行って患者さまに対する認識やコミュニケーションに変化がありましたか？



Q11.バリデーションの知識やテクニックをどの程度現場で実践しますか？



Q12.次回のバリデーション研修があった際に、参加したいですか？

①「参加する」と答えた方

- ・「1回の研修ではなかなか理解することは難しい」
- ・「何度か研修を受講することで、自分のものにし、実践していきたい」
- ・「バリデーションの理論や種類・活用法についてより深く理解するために研修を受けていきたい」
- ・「2年続けて、研修会に参加することで少しずつ理解することができたのでもっと自分のものにして活かせるようにしたいと思うから」
- ・「研修に参加することで、再度自分自身の見直しを行えるから」
- ・「スキルがまだ身につけていないので実践バージョンに参加したい」
- ・「客観的な視点や実践していたことを理論的に知ることができる」
- ・「次回が今回と同じ内容でも、2回目には違う視点で研修を受けられるかなと思う」
- ・「認知症についてのいろいろな他の研修にも参加してみたい」
- ・「老人介護を今後も続けて行くためには、コミュニケーションの1つとして身に付けたいと思う」
- ・「バリデーションについて知識を深めたい」
- ・「様々な方法（タッチング等）をもっと詳しく知りたい」
- ・「資格取得にも興味がある」
- ・「今まで受けた研修の中で一番楽しく、一番興味がわいた」
- ・「機会があれば参加したい」
- ・「コミュニケーションを行うにもバリデーションという話し方があって、いろんな方に対応できるというのに魅力を感じた」
- ・「参加することで色々と参加者の意見を聞きたい」

<スタッフの参加について>

- ・「職場内で参加したいものがあれば、参加させてもいい」
- ・「他のスタッフに行ってもらって、実際に学んでもらいたい」

②「参加しない」と答えた方

- ・「九州バリデーション研究会に参加しているので、十分だと思う」
- ・「初対面の方とのグループワークが苦手で、すごく緊張したので参加したくない」
- ・「実践出来る状態ではなく業務多忙なため参加出来そうにない」
- ・「日程が合わない（仕事、試験勉強で忙しい）」
- ・「1回参加しているので・・・いいかなと思う」
- ・「同じ内容を何回か聞くとあきてしまうため」

### ③「どちらとも言えない」と答えた方

- ・「利用者さんの感情や反応は様々で容易に実践できるものではないため、何とも言えない」
- ・「バリデーシヨンのことが深く理解出来ていない」
- ・「日々の業務をこなすことで精一杯で、考えが思いつかない」
- ・「以前の研修会で学んだことを自分のものに出来ていなかったのによく分からない」

#### <その他>

- ・「職場の人と複数で参加し、実践する方がやりやすい」
- ・「介護現場での支援の際に役に立つのか？」
- ・「コミュニケーションの基本で、認知症の方以外にも役に立つ」
- ・「奥が深く、頭の中でも整理・理解しやすかった」
- ・「今後、職場でどのように活用できるかなど経験を積んでから考えたい」
- ・「コミュニケーションが非常に大切な仕事であるが、認知症やかたくなな方との関わりを難しいの一言で片付けてしまいたくなかった」
- ・「営業の経験から人に合わせる、共感に多少の自信があったのですが、お年寄りや認知症の方、また病気の方にはもっと気を使うところ、それを観察していくことが大切だと理解した」
- ・「バリデーシヨン法を実践できれば、今よりも介護の質が上がるのではないかと思う」
- ・「参加するかどうか分からない」
- ・「部下や介護職の仲間を護り育成していきたいとの思いから指導できるまでの学びと力をつけたい」

Q13.現場で活用できそうなバリデーシヨンテクニックについて教えてください。

#### <活用できそうなテクニック>

- ・アイコンタクト
- ・ミラーリング
- ・曖昧な表現を使う
- ・センタリング
- ・タッチング
- ・レミニッシング
- ・リフレージング
- ・キャリブレーション
- ・はっきりした低いやさしい声で話す

- ・音楽を使ったバリデーションテクニック
- ・声のかけ方
- ・オープンクエスチョン
- ・口調
- ・表現
- ・共感
- ・傾聴
- ・相手の立場になって発言・行動する
- ・ご本人の言葉を理解し使うようにしている
- ・コミュニケーションで嘘をつかない
- ・自分の表情に気をつける

### <その他>

- ・「バリデーションだけでなく、他の技法もと入れるべきではないか？」
- ・「活用できそうか分からない」
- ・「82歳の母と家で同居している為、さっそく今日学んだことを実践していきたい」
- ・「発語はあるが聞き取れない利用者の方に効果があるのではと思うので活用してみたい」
- ・「どの方にもどのように活用するのかの見極めが必要となった」
- ・「施設にはいろんな方がいるので、今回学んだバリデーションを活かしていきたい」
- ・「新規の方への対応や、より深く対応できる信頼関係をまず築きたい」

Q14.バリデーション研修を行って患者さまに対する認識やコミュニケーションにどのような変化がありましたか？

### <自己の変化（行動・考え方）>

#### <自己の行動>

- ・「話をよく聴くようにしている」
- ・「相手をよく見て、アイコンタクトをよくとるようになった」
- ・「相手の思いを汲み取るために、リフレージングをよく用いている」
- ・「相手の表情や仕草、ちょっとした言葉のニュアンスを細かく観察するようになった」
- ・「患者さんの心に寄り添ったケアを心掛けるようになった」
- ・「不安な思いを出される時に、思いを聞く」
- ・「利用者様の言動、行動をよく観察し、その意味を理解できるよう、今後まずは観察から行っていきたい」
- ・「スムーズな対応ができ、利用者様の混乱を防ぐことが出来ると思う」
- ・「認知症以外の利用者とのコミュニケーションスキルとしてミラーリング、リフレ

ージング等が有効だと思う」

- ・「共感を深めるために情報収集をする」
- ・「入浴拒否の方に対してや、不穏（帰りたい）などが強くみられる方へ実践（センタリング、アイコンタクト、キャリブレーション）をしていくことで、お互いに負担のかからない介護が出来ると思う」
- ・「自分の接し方を再確認するようになった」
- ・「研修前と研修後のアプローチの仕方」

### <自己の考え方>

- ・「意識してかかわることをより一層心がけるようになった」
- ・「自分の感情に流されない」
- ・「冷静になれるようになった？」
- ・「うそをつかないことを心掛けている」
- ・「利用者の方の何気ない会話や行動など意識を持ち、性格などをきちんと把握して接するように心掛けるようになった」
- ・「患者さんへの対応をもう一度見直し、考え直そうと思う」
- ・「バリデーションを身に付けることは簡単なことではなさそうだが、自分の行動を振り返ることが出来るようになることで相手を理解する事をあきらめずに努力していけそう」
- ・「忙しさのあまり傾聴はするもののスルーしていたと今までを反省し、相手の思いが入るスペースを作り接したいと思った」
- ・「心の変化（自身）はあったと思う。まだまだ分からないことばかりなので、どのように対応したらと考えることが出来る」
- ・「相手（ご利用者）の気持ちにそうすることで、相手の思いを共感することができ、イライラしなくなると思う」
- ・「状態の変化など聞き逃さないよう、考えコミュニケーションをとっていきたい」
- ・「アセスメントする中で、もっと本当の思いを知れるようになりたい」
- ・「傾聴の姿勢がかわった」

### <患者様の変化>

- ・「共感する事により、利用者様は安心される」
- ・「笑顔が多く見られるようになったかな」
- ・「お話をされない利用者とのコミュニケーションがうまくいった」
- ・「意思の疎通がスムーズになった気がする」
- ・「利用者の方とのかかわりが円滑になった」

### <ご家族の変化>

- ・「利用者さんの進行していく症状にご家族は不安や苛立ち、恥ずかしさを感じるが、少しずつ受け入れられるようになってきた」

### <変化なし>

- ・「特に変化はない」
- ・「実践出来ず、以前と変わらない」
- ・「実感（実践）する場面がない」
- ・「ケアには人それぞれに適したやり方があり、バリデーションはその方法の一つに過ぎない」

### <その他>

- ・「変化したのかどうかはっきりしない」
- ・「(質問文に対して) 患者ではなく利用者ではないでしょうか？」
- ・「入居者の方の家族は安心と不安の入り混じった気持ちでいらっしゃると思うので、家族の方への声かけも必要と思う」
- ・「利用者のことを理解し、家族の方にも認知症のことをよく知ってほしい」
- ・「認知症の高齢者を抱えてあるご家族にバリデーションの方法を伝えることができたらと思う」
- ・「これからバリデーション法を使っていき、回想できた利用者のおもいなど、ご家族に伝えていけることが多くできたらと思う」
- ・「自宅で介護（母）を行っているので、今回勉強したことを参考にしたい」
- ・「バリデーションを用いている所を見てもらうと安心感をもってもらえると思う。また、利用者も安心でき、信頼関係が築けると思う」
- ・「認知症の方との会話の時に、今日習ったことを思い出しながら話をしたい」
- ・「目線と相手との距離をとってのコミュニケーションを図っていきたい」
- ・「入浴拒否の方についての対応の仕方に利用したい」
- ・「自分の経験（看取り、介護）を生かし、介護する側・される側どちらの人の気持ちも汲み取れ、疲れすぎないためのケアが出来る努力と精神力を持っていきたいと思えた」
- ・「今まで関わりの浅かった利用者により近づけると思う」

Q15. バリデーショナル研修受講後もバリデーショナルの知識やテクニックを深めるために、どのような取り組みをしていますか？

①「取り組んでいる」と答えた方

- ・「研修で学んだことを1つでも活かせるように努力している」
- ・「多くの方とのかかわりの中で学びを具現化する」
- ・「職場の研修会で発表」
- ・「積極的に利用者に対して話を聞いたり、声掛けを行っている」
- ・「利用者がどの様に考え、話しているかなど、会話等の中から探す」
- ・「資料の復習」
- ・「自己の感情をコントロール」
- ・「授業内容（アイコンタクト、傾聴し共感するなど）を思い出し、いろいろな利用者  
に合ったコミュニケーションをとる」
- ・「注意深く観察する」
- ・「院内研修、勉強会を開き、他のスタッフと共有していく」
- ・「バリデーショナルの本を読んだり、他の方で研修に行かれた方と話をしたりして、お  
互いの知識を交換し合っていきたい」
- ・「職場の上司の実践を見せて頂いている」
- ・「自分が学んだことを復習し、通常の場合で実践することで確実に自分の技術として  
いきたい」
- ・「資料等を持ち帰り、ミーティングなどで活用したい」
- ・「バリデーショナル法を学び、センタリング・リフレージング・ミラーリング・タッチ  
ングを実践していきたい」
- ・「いつも関心を持つ」
- ・「自分の趣味や時間をしっかり持ち、気持ちをしっかり切り替える」
- ・「利用者（担当）の方をじっくり観察し、今は理解できない行動のわけを理解したい」

②「取り組んでいない」と答えた方

- ・「まだ、取り組めていない」
- ・「何もしていない」
- ・「特にない」

<その他>

- ・「スタッフに周知させたい」
- ・「バリデーショナル研修でなく普通に認知症ケアでいいのでは？」
- ・「受講後、ネットで見たりしていたが、独学（自分だけ）では難しい」
- ・「事業所内で認知症の勉強会を定期的に行っている」

Q16.他の研修会（認知症関係の研修会）に参加していますか？それらの研修とバリデーション研修との違いについて、何かあれば書いて下さい。

①「参加している」と答えた方

- ・「根本的なところは同じではないかと感じる。テクニックは表現との違いなのではないか？」
- ・「あまり参加出来ていない」
- ・「バリデーションより認知症ケア学会の方が役立った（お金がかかっているからと思った）」
- ・「他の研修は理論が多いが、バリデーション研修ではすぐに実践できる所が良い。」
- ・「他の研修会は事例発表や制度についての研修が多いように感じる。すごく勉強になるが、自分自身のスキルアップの面では、バリデーション研修は自分自身の振り返りになり、勉強になる。」
- ・「専門知識云々というより、まず“照れ臭さ”を取りのぞくことから始めなければならぬのが、バリデーション研修なのでは？」
- ・「自閉症の研修会。認知症ではなくどういう認知をしての行動なのか理解する」
- ・「認知症関係の研修会に参加している。内容がある」
- ・「実践にすぐ活かせる」
- ・「小規模（少人数）であったので、先生の言っている事が聞き取りやすく、内容に入り込めた。他の方との話しも出来た（気軽に）」
- ・「具体的な対応方法を知ることができ、利用者の気持ちを一旦考えるようになった」
- ・「コミュニケーションスキルの実践（習得）につながる研修だと思った」
- ・「認知症ケア専門士の研修では、事例に対しての対応方法を勉強することが出来る」
- ・「他の研修会は、知識などを深めるほうに力を入れているように感じる。バリデーションは相手の息づかいから合わせていくことで相手に寄り添う方法を知ることができ、良かった」
- ・「他の研修では、共感・受容の意味、とらえ方がバリデーション法とは違っているような印象を受けた」
- ・「バリデーション研修は演習が多いので分かりやすかった」
- ・「認知症の症状や薬の使い方等の研修がある」
- ・「他の研修は講義が多いが、バリデーション研修は演習を主に行う」
- ・「色々参加できるものには参加して知識を増やしていきたい」
- ・「今回が初めての研修に参加しましたので、いろんな研修も受けてみたい」

②「参加していない」と答えた方

- ・「知識だけではなく経験も大切」
- ・「参加していないので分からない」

## 考察

本調査では、110 人にアンケート用紙を配布し、78 人から回収した。その回収率は 70.9%と比較的高かった。

Part I のアンケート結果から、バリデーション研修に参加されている方は女性が 90%と多く、職種としては介護職員や施設の管理者の方が多かった。「参加動機」としては、多いものから、認知症ケアへの学習意欲、バリデーションへの興味・関心、コミュニケーション技術の向上が挙げられた。

「バリデーションの現場での活用」について、32%の方が活用していると答えており、特に 1. コミュニケーション、2. 共感・傾聴、3. 利用者（不穏な方、いつもと表情が違う方等）に対するバリデーションテクニックを実践していることが分かった。さらに、利用者のご家族への援助（対処法を教えるなど）のために活用されていることも示された。一方、6%の方が「なかなか上手に現場で活用できない」、「自分が学んだことをスタッフに伝えているが、なかなか実践できない状況にある」と答えていた。残りの方たちは現場で満足に活用するまでには至っていないが、現場で活用しようと職場のミーティングで話し合ったり、職場の研修でバリデーションを取り扱ったりしている様子が伺える。

「バリデーションの現場での推奨（導入）」については、20%の方が「はい」と答え、残りの方たちが職場でバリデーションについて話し合ったり、他の同業者の方たちと情報を共有したりすることが分かった。「他の研修会への自主的参加」については、59%の方が自主的に参加しているが、41%の方が「業務多忙」、「日程が合わない」等の理由から参加していないことが分かった。

「認知症ケアを実践していく上で必要なスキルや教育」については、1. コミュニケーション、2. 共感・傾聴技法、3. 認知症の医学的知識および症状、4. 道徳・倫理教育が挙げられた。少数ではあるが新人教育、職場での事例報告会、認知症の方を対象とした観察方法も挙げられた。「今後、取り上げてほしい研修テーマ」として 7 割の方が引き続きバリデーション研修を希望されている他、主に 1. 「認知症の医学的な知識」、2. 「スタッフの認知症高齢者に対する倫理教育」が挙げられた。少数ではあるが「スタッフのストレスマネジメント」、「事例報告会」、「音楽療法、グリーフケア等の技法」などの研修も希望していることが分かった。

Part II のアンケート結果から、「バリデーションの満足度」については、78%の方が満足されていることが分かった。その理由として「すぐに実践出来るところが良い」、「自分自身の振り返りになる」、「演習が多いので分かりやすかった」等が挙げられた。一方、「どちらともいえない」と答えられた方が 18%、「あまりそう思わない」と答え

られた方が3%であった。「バリデーシヨンの知識（理論）の理解度」については、69%の方がバリデーシヨンの知識についてよく理解していた。一方、「どちらともいえない」と答えた方が25%、「あまりそう思わない」と答えた方が5%で、知識の理解度は高いといえる。「バリデーシヨンテクニックの理解度」については、62%の方がバリデーシヨンテクニックについて理解していた。その中でも「実践出来そうなテクニック」として、1. アイコンタクト、2. センタリング、3. タッチング等が挙げられていた。一方、「どちらともいえない」と答えた方が32%、「あまりそう思わない」と答えた方が5%であったことから、知識に比して理解度が低く、スキルの習得にバラツキが示された。

「バリデーシヨンの現場での実践・活用」については、47%の方が実践していた。「どちらともいえない」と答えた方が23%、「そう思わない」と答えた方が9%、「無記入」の方が21%であった。「バリデーシヨンの現場での必要性」を感じている方が82%が多かった。これらのことから、バリデーシヨンを現場で実際に活用しているのは半分であった。残りの方たちは「バリデーシヨンを職場の研修」に取り入れたり、「研修資料を復習」したりと実践を試みているが、スキルの獲得は一回の研修では困難であるため、実践に活かすまでに至っていないことが考えられる。

バリデーシヨン研修は、平成19年度から平成25年度の約7年間に渡って行われている。本調査では、平成19年度から平成25年度に参加された方を対象にしており、バリデーシヨン研修に満足されている方が8割いることから、地域の認知症ケアにおいてバリデーシヨンが如何に必要であるかということが分かる。しかし、Part I・Part IIでも述べたように、バリデーシヨンを現場で活用されている方は約5割いるが、残りの方は実践を試みているが実践に活かすまでに至っていないことが考えられる。実践できていない理由として、「日々の業務をこなすことで精一杯」、「以前の研修会の時に学んだことを自分のものに出来ていなかった」、「バリデーシヨンのことが深く理解出来ない」等が挙げられた。このことから、1回限りの研修ではスキルの獲得が難しいことが分かる。今後は、バリデーシヨン研修に継続的に参加する機会を提供することや、認知症ケアにおけるコミュニケーションスキルの基礎コース・応用コースのように研修レベルを細分化することで、バリデーシヨンをより実践に活かしやすくなるを考える。